

難民食料支援学び語り合う会⑥ 2月18日(土)の報告

難民の方々(アフガニスタン・リビア・カメルーンなどのご出身)が語られた内容(研究センターNEWS223号に掲載)を紹介します。切実なお声を受け止め、私たちは次回、引き続き話し合いたいというまとめを行いました。6月17日、ぜひ一緒に学び語り合しましょう。

<難民食料支援学び語り合う会⑥で出された難民の方々の実情と想い>

- ・ 支援してくださってありがとうございます。食料はどのような内容か、どれくらいの量かは重要ではなくて、お気持ちに感謝しています。
- ・ 難民はたいへん苦勞していて、日本でも、その状況が続いています。日本の言葉がとても難しく(ひらがな、漢字、カタカナと文字が3つあることがネック)なかなか覚えられせん。自立して生きていきたいという気持ちはありますが、ビジネスを始めるのも、キャリアを生かすことも難しいことを感じています。
- ・ 私は難民として認められていますが、紙をもらうだけで政府からの支援は何もありません。厳しい生活をしていて、夫と子ども3人と暮らしていますが、夫とふたりで働いても、家賃、電気、ガス代だけで収入の半分以上は持っていかれます。さらに日本での生活はストレスが多いので、歯もほとんど抜けました。医療費もかかります。難民のために何でも支援していただけたらありがたいです。国連難民高等弁務官への支援は、日本は世界で2位の拠出国です。海外の難民にはとても支援していますが、国内の難民には何もしていない。市民の力に期待したい。
- ・ 支援してくださる方のおかげで、自分はひとりではないと気付くことができました。
- ・ 難民はさまざまな困難を抱えていて、食料、住居、医療、キャリア形成、教育など、どんな課題を難民が抱えているかということ、こういう場でアプローチについて議論していけたらと思います。一度で解決はできませんが、方法をみなさんと探りたいと思います。
- ・ 特に大変なのは仮放免の人たちです。仮放免だと働く許可もないし、保険にも入れないし、支援もない状況です。みんなが自立して生活していけるように、日本の政府が難民に支援をしてくれるようにと願っています。政府は支援どころか、何回も申請する人を送り返そうとしていて、危機感を覚えています。これからもよろしくお願いします。
- ・ 私は、子どもたちもいて6人で生活していますが、部屋は1つしかありません。その1部屋で6人生活していて、まったく健康的な状況ではありません。ビジネスを始めて自立する手段がありません。迫害から安全を求めて来たのだけれども、その先でただ生きていくだけという状況、自分らしく生きることができていない状況があることを知っていただきたいと思います。